

COSMIC DECEPTION: LET THE CITIZEN BEWARE

by Steven M. Greer M.D.

Director, The Disclosure Project

<http://www.disclosureproject.org>

Copyright 2002

つくられた宇宙からの脅威：国民は狂気の謀略に気付け

スティーブン・M・グリア 医師

公開プロジェクト責任者

著作権 2002 年

([SiriusDisclosure のウェブサイトより](#))

これを想像してほしい。時は 2001 年の夏、誰かがあなたに映画の台本または本の原稿を渡す。それには、ある極悪非道のテロ計画がどのように展開していくのかが書かれている - 二つの百十階建て世界貿易センタービルおよび国防総省の一部が、ハイジャックされてこれらの建造物に突入する商用ジェット機により破壊される。

もちろん、あなたはこれを一笑に付すだろう。もしあなたが映画界の大御所または本の編集者であるなら、たとえそれがフィクション映画や小説のためであろうと、馬鹿げたありそうもない話として即座にはねつけるだろう。つまり、こういうことなのだ：世界貿易センタービルに 2 機のジェット機が突入した後で、レーダー追跡を受ける 1 機の商用ジェット機が我々の防空網を無事通過し、世界で最も警戒厳重な空域に到達し、よく晴れた日の白昼に堂々と国防総省に突入する。そのようなことがどうして可能なのか！ しかもこれは、自らを防衛するために毎日 10 億ドル以上を費やす国家でのことなのだ！ 馬鹿げている、非論理的だ - 誰もそれを信じないだろう！

不幸なことに、我々のうちの何人かが、これらの台本を見た - はるかに悪い事態をもたらす筋書きの - そして我々は、誰もそれを笑っていない。

最近起きたこれらの悲劇にもわずかな希望の兆しが見られるが、その一つがこれである：人々はもしかすると - もしかするとだが - UFO を秘密にしてきた陰の準政府的、国家横断的組織が実在するという見方を、最初はそれがいかに信じ難いことに思われようとも、真剣に受け止めるようになるかもしれない - またその組織が、9/11 の出来事が小さく見えるほどの騙しと悲劇の計画を持っていることも。

政府、軍、企業の部内者数百人による証言は、次のことを確証している：UFO は実在する； そのうちの一部は我々の '闇に隠れた' 陰の政府のプロジェクトにより建造されたものであり、また一部は地球外文明からやってきたものである； UFO の背後にある技術

を - 好機が到来するまで - 抑えておくことができるようにするため、あるグループがこの事実を秘密にしている。この技術は、石油、ガス、原子力、その他の集権化された、破壊性の高いエネルギーシステムの必要性に取って代わることができる - したがっていずれはそうなるだろう。

現在、このエネルギーおよび輸送という 5 兆ドル産業は、高度に集権化され、計量され、高い収益性を有する。この産業は、工業化社会のすべての活動を支えている要素である。この産業こそは、すべての特別利益団体の生みの親である。それは、あなたや私が考えるようなマネー (money) にではなく、地政学的権力に関係している - まさしく現在の世界秩序を維持している、集権化された権力。この邪悪な世界秩序を維持するというただそれだけのために、世界では絶え間のない戦争、大部分の地球住民にとっての終わりなき貧困、地球規模の環境破壊の状態が続いているのである。

そのたくらみは巨大であるが、それよりもさらに大きなたくらみがある： 恐怖による支配。ウェルナー・フォン・ブラウンが、彼の晩年 4 年間の代弁者であったキャロル・ロジン博士に語ったように、ある狂気じみた組織 - 軍事、産業、情報機関、研究所の複合体 - が、冷戦、無法国家、さらに世界的テロ (今日我々はこの段階にいる) を経て、最終的なトランプカードを使おうとしている： つくられた宇宙からの脅威である。

最終的には数兆ドル規模となる、宇宙兵器に向けた支出を正当化するため、世界は宇宙からの脅威という嘘により騙されるだろう。こうして世界を、恐怖、軍事主義、戦争の中で結束させる。

私は 1992 年以來、少なくとも十数人の信頼できる部内者たちから私に明かされた、この台本を見てきた。もちろん、私も最初は笑い飛ばした。それがあまりにも馬鹿げており、ありそうもないことに思えたからである。ロジン博士は、9/11 が起きる前に彼女の証言を公開プロジェクトに提供した。さらに他の証人たちは、次のことをはっきりと私に語った： 深い秘密の中で '闇の' プロジェクトにより建造され、その統制下に置かれている、UFO のように見える物体群がある； それらは、一部の誘拐や動物切断を含む、ET の仕業に見せかけた出来事を捏造するために使用され、宇宙の生命体を恐れる文化の種を蒔いている； そして世界的テロ後のある時点で、今や明らかになった ARV (複製された異星人の輸送機； Alien Reproduction Vehicles； 実際の ET 輸送機を逆行分析して人間が建造した UFO； 本論説の筆者による著書 'Disclosure' を読みたい) を利用し、地球攻撃という嘘を捏造する出来事が展開するだろう。

映画 'インデペンデンス・デイ' のように、新たな宇宙的スケープゴートに ET を使う、軍事主義による世界統一の企てが姿を現すだろう (第三帝国時代のユダヤ人を考えよ)。

このどれもが、私や他の部内者たちにとり新しいことではない。1960 年代に書かれたアイアンマウンテン報告 (*The Report from Iron Mountain*) には、我々が新たな敵を持

つことができるように、宇宙の生命体を悪魔化する必要性が述べられている。(恐怖と戦争の中で) 人類を結束させることができる地球外の敵。これは、保守的な共和党大統領にして五つ星将軍であったアイゼンハワーが 1961 年に国民に警告した (当時は誰も耳を貸さなかったが...) 数兆ドルの軍産複合体に対する、究極の救済策であることが判明するだろう。

したがって、9/11 後の台本はこのようになる - 十分な数の人々がこの情報を知っていれば、計画を挫折させることができる。なぜなら、そのとき彼らは十分な数の人々と指導者たちを騙すことができないからである。そうでなければ、これが実行されることになる：

世界的テロの時代 - 核兵器使用の危機がつくり出され、ことによると実行され、宇宙における軍備拡張が正当化される - これが終わると、宇宙からやってくる脅威についての情報を一般国民に見せる取り組みが強化される。地球に衝突する小惑星だけではない、さらに別の脅威も。地球外生命体の脅威である。

過去 40 年間、いわゆる UFO 研究は強力なメディア組織と結びついて、'インデペンデンス・デイ' のような恐ろしい映画、エイリアンによる誘拐や虐待を現代社会の (ある種の集団における) 事実として紹介する疑似科学により、ET を悪魔化する度合いを強めてきた。これまで ET とコンタクトした人々がいることを、私は少しも疑っていない； 本当の ET コンタクトが、捏造された膨大な嘘の中に含まれていることも、私は確信している。

すなわち、本当の ET 事象はほとんど一般国民には伝えられない。'組織' が意図的に、捏造された、恐ろしい、本質的によそ者嫌いの報道だけを大衆の目に触れさせ、読まれるようにしているのである。ET を恐れるこの心理的条件付けは、将来の騙しに備えてこれまで数十年間にわたり巧妙に強化されてきた。9/11 が些細に見えるほどの騙しを準備するために。

今私がこれを書いている理由は、最近メディアおよび情報機関にいる何人かの高位の情報筋が私に接触し、次のことを明らかにしたからである： 捏造された出来事と筋書きの展開が間近に迫っており、これが UFO および ET に関して恐怖をまき散らす活動を一層活発化させるだろう。結局のところ、敵を持つためには、人々がある人物、ある団体、この場合で言えばすべての範疇の生命体を憎悪し、恐怖するように仕向けなければならないのだ。

明確にしておこう： UFO の秘密、ARV (複製された異星人の輸送機)、および関連する技術 - この中には ET に見せかけた出来事、ET による誘拐、その他を捏造することのできる技術を含む - を制御している狂気の秘密プログラムが、公開 (Disclosure) を乗っ取り、それをねじ曲げて恐怖の炎に変え、最終的には ET を新たな敵として見せる様々な出来事を展開することを企てている。騙されてはいけない。

すでに数えきれないほどの本、ビデオ、映画、ドキュメンタリーの題材となっているこ

のナンセンスは、これから公開プロジェクト（The Disclosure Project）の事実、証拠、および直接証人の証言を盗み取り、それに便乗し、宇宙からやってくる脅威として偽の ET 像を描き、そのつくられた宇宙からの脅威を世界に向けて発信するだろう。騙されてはいけない。

真実を嘘に混ぜ、恐ろしく見える UFO 事件を捏造することにより、この '計画' は、最終的に新たな、持続可能な、地球外の敵をつくり出すことになる。では、誰がこれに気付くのか？

あなたが、それに気付くのだ。なぜなら、今やあなたはこのことを知っているからだ：動員された世界最高の科学者たち、数兆ドルの資金、その 60 年間の活動を経て、ある隠れた陰のグループ - 政府内政府であると同時に、我々が知っている政府からは完全に離脱した組織 - は、地球攻撃を開始し、それを ET の仕業のように見せる技術、騙しの技法、およびその能力を身につけている。私は 1997 年に、議会メンバーや他の人々にこの計画についての背景説明を行なうため、一人の人物をワシントンに連れていった。我々のチームの全員がそのときこの人物に会った。彼は、ARV（複製された異星人の輸送機） - ロッキード、ノースロップ、その他により建造され、世界中の秘密の場所に格納されている物体 - を利用してある施設に対する偽の攻撃を行なうときの計画会議に出席していたのである。これにより指導者たちも国民も一様に、宇宙からの脅威が実際にはないのにあると信じ込まされることになる。（彼が証言を行なう前に、彼の '指導者たち' が彼を連れ去り、説明会が終わるまでバージニア州の秘密の場所に隔離した...） ウェルナー・フォン・ブラウンは、宇宙空間における戦争の口実として使われる、このような捏造について警告した。また、他の多くの人々も同じことを警告した。

宇宙兵器はすでに配備されている - 宇宙計画と並行して 1960 年代から行なわれている秘密の宇宙計画の一部として。ARV は建造され、準備が完了している（著書 'Disclosure' 中のマーク・マキャンドリッシュその他による証言の章を読みたい）。宇宙空間におけるホログラフィーを使った騙しの技術は配備され、テストされ、いつでも稼働できる状態にある。そして大手メディアは、今や王様の腹心の口述筆記をする手先である。

このすべてがサイエンス・フィクションのように思えることを、私は承知している。馬鹿げている、あり得ない。さながら、9/11 が起きる前にそれがあり得ないことに思えたように。しかし、その考えられないことが起きたのである。だから、もし我々が油断すると、再びそれは起きる。

このすべてと進行中の恐怖および操作の雰囲気を組み合わせるならば、そこには我々の集会的判断および憲法の停止という、現実の危険が存在する。

しかし、このことを知ってほしい：もし宇宙からの脅威があるならば、我々は人間が核兵器を爆発させ、有人旅行による宇宙進出を始めたまさにその時点でそれを知っただろ

う。制御できない不法な秘密組織による、銀河系の一員としての愚劣かつ無謀な行為にもかかわらず、いまだに我々が地球の自由大気を呼吸している事実が、これらの訪問者たちの自制された平和的意図を示す十分な証言である。脅威はすべて人間がつくり出している。だから、この脅威に対処し、制御し、戦争、破壊、秘密裏に行なわれる操作といった現在の状況を、真の公開（Disclosure）および持続した平和の状態に転換しなければならないのは、我々なのである。

地球上の戦争に代わる宇宙空間における戦争は、進化ではなく宇宙的狂気である。恐怖による世界の結束は、無知による世界の分裂よりも悪い。今や、未来に向けて大きく飛躍するときである。それにより我々は、恐怖と無知から抜け出し、連綿と続く世界平和の時代に移行するのである。それが人間の運命であることを知ってほしい。そしてそれは、我々がそれを選択するや否や、我々のものになるだろう。

スティーブン・M・グリア 医師

公開プロジェクト責任者

バージニア州アルベマール郡

2002年6月

<http://www.disclosureproject.org>

(訳： 廣瀬 保雄)